

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	富山県	学校名	富山市 三成中学校
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	中学校1～3年生 特別活動
		時数等	3
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、年齢による差別や偏見をなくすとともに、子どもが互いのよさや違いを認め合うようにする。</li> <li>自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。</li> </ul>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>有識者や歌手等を講師として招き、生徒・保護者・地域の方々に向けた人権教育講演会を実施した（以下に演題と講師を記す）。</li> <li>①「みんなが輝く！三成中で守り育てる人権」（金沢大学 准教授 森 慶恵）</li> <li>②「互いの人権を尊重し合う～心理学的な視点から～」（富山大学 教授 石津 憲一郎）</li> <li>③「オムライスと出会うために」歌手 CHIKO</li> </ul>		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に本校が目指す人権教育のテーマを全ての講師に伝え、それぞれの立場で人権意識を高めることの大切さについて語っていただけよう、連絡・調整を密にした。</li> <li>全ての講演を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらにして持っているものだということ、そして、未来を担う子供たち一人一人の人格が尊重されることの大切さを教えていただいた。</li> <li>講演①では、世界人権宣言第1～3条の内容が書かれた「人権カード」を学年ごとに配付しこれを異学年で交換し内容を確認することで、人権意識の高揚を図った。</li> <li>講演②では、「差別や偏見が起こるのはなぜか」という問いかけから、人間が無意識のうちにもっている負の感情に触れながら、「自分と相手を大切にすることの意義について教えていただいた。</li> <li>講演③では、自らの生き立ちに触れながら人の感じ方や考え方は多様であること、そして多様であるからこそ互いのよさに気付けることを、教えていただいた。</li> </ul>		

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、多様性を受容し互いの人権を尊重すること、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にしたい関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】各講演後の「振り返りワークシート」の生徒の記述から、年齢の異なる人々が、互いに受容し合うことの大切さについて学んだことが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。校内ボランティア活動や校外学習において、「自分と相手を大切にしたい関わり」に留意しながら活動しようとする生徒の姿が見られた。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にしたい関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、「相手のよいところに目を向け、それを大切にしたい対話」を実践する生徒の姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	富山県	学校名	富山市 三成中学校
人権課題	女性	対象学年・ 取り扱った教科等	中学校1～3年生 特別活動
		時数等	3
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、性別による差別や偏見をなくすとともに、互いのよさや違いを認め合い、男女が互いに参画する社会を形成することの重要性について学ぶ。</li> <li>・自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。</li> </ul>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者や歌手等を講師として招き、生徒・保護者・地域の方々に向けた人権教育講演会を実施した。</li> <li>・「みんなで取り組むSDGs×人権プロジェクト」と題して、生徒が主体となった持続可能な人権意識の啓発活動を実践した。</li> </ul>		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらにして持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということを伝えていただいた。また、性別の違いをふまえて互いに理解し合い、人権意識を基盤とした男女平等観をもつことの大切さについて学べるよう工夫した。</li> <li>・国連によって採択された「SDGs－持続可能な17の開発目標－」に関連させた「みんなで取り組むSDGs（三成の頭文字）×人権教育」というキャッチフレーズを掲げ、人権意識啓発のための活動を展開した。生徒会保健体育委員会の生徒が中心となって、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」を掲げた掲示物を作成・配布し、男女が互いに参画する社会を実現することや、互いを受け入れて協力し合うことの重要性を訴えた。</li> </ul>		

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、多様性を受容し互いの人権を尊重すること、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にし、男女が共に協力する関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人を大切にする」  
【生徒変容の分析】各講演会後の「振り返りワークシート」の生徒の記述から、性別の異なる人々が、互いの違いを知り、互いを思いやりながら生活することの大切さについて学んだことが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「男女が共同参画する社会を形成するために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。本事業が、男女が協力して参画していく社会の在り方について考える端緒となっていることがうかがわれた。
- ・ 技能的側面：「男女が共に協力する関わり方を、意識して活動できる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、男女が互いに協力し、課題解決に向けて活動する姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

富山県

学校名

富山市 三成中学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等中学校1～3年生・特別  
活動2年・総合的な学習

時数等

5

目標・人権教  
育のねらい

- ・一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、年齢の違いによる差別や偏見をなくすとともに、高齢者の方との相互理解や連帯感を深めるようにする。
- ・自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。

実施した内容

- ・有識者や歌手等を講師として招き、生徒・保護者・地域の方々に向けた人権教育講演会を実施した。
- ・「みんなで取り組むSDGs×人権プロジェクト」と題して、生徒が主体となった持続可能な人権意識の啓発活動を実践した。

工夫した点

- ・講演を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらにして持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということを教えていただいた。また、人生経験の豊かな方々への尊敬や感謝の気持ちをもつことの大切さを語っていただいた。
- ・国連によって採択された「SDGs－持続可能な17の開発目標－」に関連させた「みんなで取り組むSDGs（三成の頭文字）×人権教育」というキャッチフレーズを掲げ、人権意識啓発のための活動を展開した。生徒会保健体育委員会の生徒が中心となって、目標3「すべての人に健康と福祉を」を掲げた掲示物を作成・配布し、誰もが過ごしやすい社会をつくることの重要性を訴えた。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、多様性を受容し互いの人権を尊重すること、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にしたい関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】各講演後の「振り返りワークシート」の生徒の記述から、年齢の異なる人々が、互いの違いを知り、互いを思いやりながら健康と福祉のために行動することの大切さについて学んだことが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にしたい関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】本県が実施している職業体験活動「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」において、福祉施設を選んで意欲的に活動する生徒が複数見られた。「振り返りワークシート」から、高齢者の健康と安全の実現に向けて尽力することの意義について考えを深めた生徒の姿が見られたことが分かった。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	富山県	学校名	富山市 三成中学校
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	中学校1～3年生 特別活動
		時数等	3
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、障害者への差別や偏見をなくすとともに、互いのよさや違いを認め合うようにする。</li> <li>自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。</li> </ul>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>有識者や歌手等を講師として招き、生徒・保護者・地域の方々に向けた人権教育講演会を実施した。</li> <li>「みんなで取り組むSDGs×人権プロジェクト」と題して、生徒が主体となった持続可能な人権意識の啓発活動を実践した。</li> </ul>		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>3回の講演を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらに持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということを教えていただいた。また、障害の有無によって起こる差別や偏見を解消し、互いに理解し合い、受容し合うことの大切さについて語っていただいた。</li> <li>国連によって採択された「SDGs－持続可能な17の開発目標－」に関連させた「みんなで取り組むSDGs（三成の頭文字）×人権教育」というキャッチフレーズを掲げ、人権意識啓発のための活動を展開した。生徒会保健体育委員会の生徒が中心となって、目標10「人や国の不平等をなくそう」を掲げた掲示物を作成・配布し、障害の有無を超えて誰もが過ごしやすい社会を実現することや、互いの違いを受け入れて協力し合うことの重要性を訴えた。</li> </ul>		

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、多様性を受容し互いの人権を尊重すること、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にした関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】各講演後の「振り返りワークシート」の生徒の記述から、障害の有無に関わらず、互いの違いを知り、受容し合うことが大切であるという旨の記述が見られた。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「障害の有無を踏まえて、自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。校内ボランティア活動や校外学習において、「自分と相手を大切にする関わり」に留意しながら活動しようとする生徒の姿が見られた。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にした関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、「相手のよいところに目を向けそれを大切にした対話」を実践する生徒の姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	富山県	学校名	富山市 三成中学校
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	中学校1～3年生 特別活動
		時数等	3
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、国籍や文化・考え方の異なる人々と、互いのよさや違いを認め合うようにする。</li> <li>自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。</li> </ul>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンゴ共和国出身の父をもつ歌手（CHIKOさん）を講師として招き、生徒・保護者・地域の方々に向けた人権教育講演会を実施した。</li> <li>国籍や文化・考え方の異なる人と理解し合うことの難しさと、これを克服し互いに違いを認め合い、自分と相手を大切にしながら関わることの重要性について学んだ。</li> </ul>		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらにして持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということを教えていただいた。</li> <li>国籍や文化・習慣・考え方の違いを踏まえて、自分と相手を大切にしながら互いに受容し、ともに生きていこうとする大切さについて語っていただいた。</li> </ul>		

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、多様性を受容し互いの人権を尊重すること、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にした関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】講演後の「振り返りワークシート」の生徒の記述から、国籍や文化・習慣や考え方の違いを知り、受容し合うことの大切さについて学んだことが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「文化や考え方の違いを踏まえて、自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。校内ボランティア活動や校外学習において、「自分と相手を大切にしている関わり」に留意しながら活動しようとする生徒の姿が見られた。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にしたい関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、「相手のよいところに目を向けそれを大切にしたい対話」を実践する生徒の姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

富山県

学校名

富山市 三成中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等中学校1～3年生  
特別活動

時数等

6

目標・人権教育のねらい

- ・一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、差別や偏見をなくすとともに、互いのよさや違いを認め合うようにする。
- ・「自分も相手も大切にできる関わり方」を身に付けることを目指し、自他の人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。

実施した内容

- ・「SNSで気持ちを伝えるトレーニング」と題して、アサーショントレーニングを実施した。

工夫した点

- ・本校が目指す人権教育のテーマを全校生徒に伝え、全ての活動を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらに持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということを伝えた。
- ・生徒会執行部、保健体育委員が、SNS上の対話で摩擦や衝突が発生した場面を設定し「この場合の、自分も相手も大切にしたい関わり方とはどのようなものか」と問いかける動画を作成した。これを全校生徒が視聴し、動画に登場する生徒の問いかけに答える形で自分の考えを形成し、学級の生徒と交流しながら、互いの人権を尊重する望ましい関わり方の在り方について考えを深めた。
- ・授業の終末では取組を振り返りながら、「SNS上で用いる言葉の在り方」について、考えを深める生徒の姿が見られた。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、互いの考え方や感じ方の違いを認め合うこと、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にしたい関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】「振り返りワークシート」の生徒の記述から、SNS上では互いの違いを理解し、相手の身になって言葉を選ぶことが大切であるということを知ることが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。日常生活において、自分と相手を大切にしながら関わろうとする生徒の姿が見られるようになった。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にしたい関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、「相手のよいところに目を向け、それを大切にしたい対話」を実践する生徒の姿が見られた。また、「周囲と心地よく関わられた」と感じている生徒の割合が、事業開始時75%から授業終了間際には79%に向上した。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	富山県		学校名	富山市 三成中学校	
人権課題	性的思考・性自認	対象学年・ 取り扱った教科等	中学校1～3年生 特別活動	時数等	3
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、性別や性自認による差別や偏見をなくすとともに、互いのよさや違いを認め合うようにする。</li> <li>・自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。</li> </ul>				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者を講師として招き、「互いの人権を尊重し合う～心理学的な視点から～」という演題で生徒・保護者・地域の方々に向けた人権教育講演会を実施した。</li> <li>・人間が無意識のうちに負の感情（差別意識等）を抱えてしまいがちだということを踏まえて、この感情とどう向き合うことが大切なのかという点について、お話をいただいた。</li> </ul>				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に本校が目指す人権教育のテーマを全ての講師に伝え、性別や性自認・性的指向の違いを踏まえながら、人権意識を高めることの大切さについて語っていただけるよう、連絡・調整を密にした。</li> <li>・講演では、「差別や偏見が起こるのはなぜか」という問いかけから、人間が無意識のうちにもってしまいがちな負の感情（差別意識等）と、これを踏まえながら「自分と相手を大切にすることの意義について教えていただいた。</li> <li>・講演を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらにして持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということをお話していただいた。</li> </ul>				

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、多様性を受容し互いの人権を尊重すること、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にした関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】講演後の「振り返りワークシート」の生徒の記述から、考え方や感じ方の異なる人々が、互いの違いを知り、受容し合うこと大切さについて学んだことが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。校内ボランティア活動や校外学習において、「自分と相手を大切にしている関わり」に留意しながら活動しようとする生徒の姿が見られた。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にしたい関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、「相手のよいところに目を向け、それを大切にしたい対話」を実践する生徒の姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	富山県		学校名	富山市 三成中学校	
人権課題	その他（人間関係づくり）	対象学年・ 取り扱った教科等	中学校1～3年生 特別活動	時数等	6
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が互いにかげがえのない存在であることを自覚し、差別や偏見をなくすとともに、互いのよさや違いを認め合うようにする。</li> <li>・「自分も相手も大切にできる関わり方」を身に付けることを目指し、自他の人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。</li> </ul>				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の内容で、アサーショントレーニングを実施した。</li> <li>①上手に断るトレーニング、②上手に頼むトレーニング、③自分から仲間に入るトレーニング、④SNSで気持ちを伝えるトレーニング、⑤温かい言葉をかけるトレーニング</li> </ul>				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が目指す人権教育のテーマを全校生徒に伝え、全ての活動を通して、人権とは「人が人として自由に生きるための権利」であり、誰もが生まれながらに持っているものだということ、そして「『人権を守る』とは自分の大切さと、他の人の大切さを認めること」だということを伝えた。</li> <li>・生徒会執行部、保健体育委員が、具体的な生活場面を設定しながら「自分も相手も大切にしたい関わり方の在り方」について問いかける動画を作成した。これを全校生徒が視聴し、動画に登場する生徒の問いかけに答える形で自分の考えを形成し、学級の生徒と交流しながら、互いの人権を尊重する望ましい関わり方の在り方について考えを深めた。</li> <li>・授業の終末では取組を振り返りながら、「自分自身も持っている長所（よさ・強み）を発見し、肯定的に捉えながら生活していくことの大切さ」について考えを深めた。</li> </ul>				

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・ 道徳科にて、互いの考え方や感じ方の違いを認め合うこと、そして自分と相手を大切にすることの大切さについて学んだ。
- ・ 特別活動や総合的な学習の時間において、「自分と相手を大切にしたい関わり」を意識して活動した。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」  
【生徒変容の分析】「振り返りワークシート」の生徒の記述から、考え方や感じ方の異なる自分たちが、互いの違いを知り、違いを認め合うことの大切さについて学んだことが分かった。
- ・ 価値・態度的側面「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」  
【生徒変容の分析】同じく「振り返りワークシート」から、「自分と相手を大切にすること」の大切さに気付いたという旨の記述が多数見られた。日常生活において、自分と相手を大切にしながら関わろうとする生徒の姿が見られるようになった。
- ・ 技能的側面：「自分と相手を大切にしたい関わり方を意識して対話することができる」  
【生徒変容の分析】校外学習や地域の方々との交流活動において、「相手のよいところに目を向け、それを大切にしたい対話」を実践する生徒の姿が見られた。また、「周囲と心地よく関わられた」と感じている生徒の割合が、事業開始時75%から授業終了間際には79%に向上した。